

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
コミュニケーション・プロジェクト HC-4		選択	2	2.3	前期 (集中)
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
間嶋 健	B312	ken.majima	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt; 「多様な表現方法・コミュニケーション方法について、実社会の体験活動を実践することを通して、学び得た見識を社会実装化にすることに挑戦する。」</p> <p>&lt;概要&gt; HC-4 では、市井に出て、あらゆる現象におけるストレングスを分析し、分析結果や成果物を多くの人に効果的にプレゼンテーションする方法を習得する。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・イベント <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	富士河口湖町の特性などを事前に調べておくこと。				
教科書	なし。				
参考書	特になし。				
外部教材	特になし。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	コミュニケーションに関する基本的な考え方を習得できる。			HSU(1)~(3) HC (6)	
②	周囲の人々と「話す」「聞く」ことにより円滑なコミュニケーションをとることができる。			HSU(1)~(3) HC (6)	
③	状況に応じた適切、的確なコミュニケーションが実践できる。			HSU(1)~(3) HC (6)	
④	効果的なプレゼンテーションが行える。			HSU(1)~(3) HC (6)	
⑤	コミュニケーション学から派生する、一般知識、社会常識、マナー等を身に付ける。			HSU(1)~(3) HC (6)	
授 業 計 画					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を構成する 現象学における本質看取を学び、授業内容や成果物についてディスカッションする。</li> <li>・地域特性を知ろう 富士河口湖町に関する特性を分析する。 帰納法的思考・演繹的思考・アブダクションを駆使して、成果物を検討する。</li> <li>・コンテンツのストレングスを分析する ひとつひとつのコンテンツにおける現象に対するストレングスを分析する。</li> <li>・フィールドワーク コミュニケーション能力を磨く。</li> <li>・プレゼンテーション AI を活用し簡便に大きな生産性を得られる方法を習得する。 SNS 等に公開することを通し、「バズる」ことを意識したプレゼンを考察し、社会的な評価を受ける。</li> </ul>					
必要時間 (単位: 時間) : 30					
学 習 課 題 ・ 学 習 時 間					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士河口湖町の地理的な特性等については、事前に学習しておくこと。</li> <li>・積極的に AI を活用するため、Chat GPT や、Canva の操作については馴染んでおくことよい。</li> </ul>					
必要時間 (単位: 時間) : 60					

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	0	20	0	80	100
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	0	5	5
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	5	5
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	10	10
	発表・表現伝達する力	0	0	20	0	20	40
	コミュニケーション力	0	0	0	0	20	20
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点				
成果発表	①	✓	何らかの方法（SNS 等）で学外の人たちへ向けた成果発表を行う。			プレゼンテーションの現場で講評する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
その他	①	✓	企画や作業への積極性を評価する。			講義中に総評を行う。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	なし						
実践的授業の内容	関係者への直接の聞き取りや、多数の人に向けたプレゼンテーションを行うことで、コミュニケーション技術を涵養する。						
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最少開講人数は 2 名。定員は 8 名。</li> <li>・ 毎回の授業はグループでの行動が基本となる。</li> <li>・ 毎回の授業で PC を使うため必ず持参すること。</li> <li>・ 能動的な学習態度で臨まない場合、授業への参加が困難となることに留意して履修すること。</li> <li>・ 感染症の状況によってはシラバスの内容を変更することがある。</li> </ul>						